

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

広報しまだい
Shimane University

2025.07 Vol.61



特集

島根大学とへるん入試

自らの学びのタネを育て、可能性を拡げる

人々人 たち

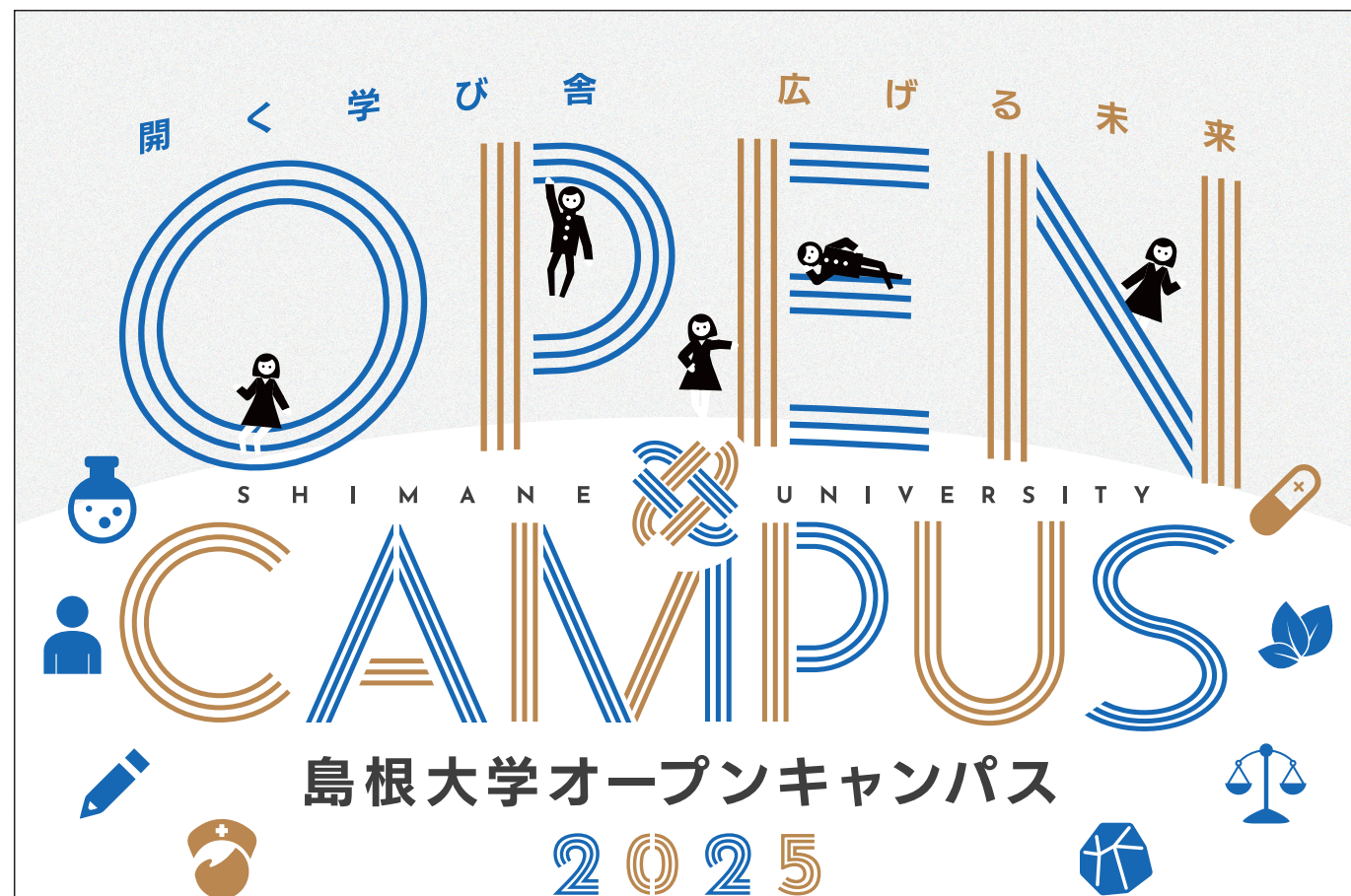
撮影地／小泉八雲旧居

*shimadai

広報しまだい
Shimane University

Vol.61

2025年7月発行 編集・発行／島根大学
〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL 0852-32-6603 FAX 0852-32-6630 <https://www.shimane-u.ac.jp/>



島根大学オープンキャンパス

2025

松江キャンパス

MATSUE CAMPUS

8.5 火
TUE

法学部
人間科学部

8.6 水
WED

教育学部
生物資源科学部

8.7 木
THU

総合理工学部
材料エネルギー学部
※材料エネルギー学部は6、7日の2日間開催します

島根大学入試課

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL 0852-32-6073

出雲キャンパス

IZUMO CAMPUS

8.2 土
SAT

医学部医学科
医学部看護学科

島根大学医学部学務課入試担当

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL 0853-20-2087

※予約の申込は切は本学HPでご確認ください
※障がい等で配慮が必要な方は事前にお知らせください

新たな視点“学びのタネ”で入試改革

※Volatility(変動性)・Uncertainty(不確実性)・Complexity(複雑性)・Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとった造語

島根大学がへるん入試をはじめた背景には、「時代の変化」があります。これからは、激しい変化が予想され、これまでの常識が通用しない「VUCA(※)」と呼ばれる時代。その時代を担っていく若者は、答えがない複雑な課題に対しても、主体性や創造性を持って切り開いていく必要があります。

そのような時代において、大学教育にも、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、主体的に判断・行動し、他者と協働して課題解決に挑戦していく人材を育成することがより求められるようになりました。

そこで、「へるん入試」では、高校生がもっている知的好奇心や探求心を「学びのタネ」と定義し、学力の一つの要素になっている「学びに向かう姿勢」の評価を特に重視して設計しました。

「時代の変化」があります。これからは、激しい変化が予想され、これまでの常識が通用しない「VUCA(※)」と呼ばれる時代。その時代を担っていく若者は、答えがない複雑な課題に対しても、主体性や創造性を持って切り開いていく必要があります。

2021年度入試から導入した「へるん入試」。松江市にゆかりのある小泉八雲の愛称にちなんで名付けました。小泉八雲は、文学者・新聞記者・民俗学者・英語教師などとして多方面で才能を発揮しながら、異文化の架け橋となり愛される人物。そんな「へるん」の魅力と才能の多様性を、高校生の持つ多様な可能性に重ね合わせ、自分らしい学びを主体的につくっていくこうとする意欲を島根大学の学びにつなげてほしいという願いを込めています。

「学びのタネ」をもっている学生は、自分がどのようなことを学ぶ必要があるのか意識して入学している分、大学で学んだことを「学びのタネ」にどんどん肉付けして変化させ、新しい世界を作っていくことが得意です。また、他者と関わりたいという意欲も旺盛です。

松崎 研究を進めるには、多くの知識を持っているだけでなく、それを生かして他者と協働することがかぎとなってきます。たとえば、専門分野が違う相手と議論をしたときに、自分の考えをより適切に相手に伝えることや、自分たちが取り組んでいる課題についてどうすれば、もっと良くできるのか?という視点で互いの知識や考えを深め合ったことがきっかけで、別の切り口から新たな研究の種が生まれ、課題の解決に近づくことがあります。

中村 実際、地元の企業が抱える課題に学生たちが取り組む授業では、自分の意見を活発に発言しています。一般入試で入った学生も含めて意見を交換し合う過程でへるん入試の、そういう視点があったのか?とお互いに気づきを与え合うという好循環も生まれています。

松崎 異なる入試方法で入った学生の存在が、大学全体の学びの質の向上にもつながっていると感じています。

卒業成果発表会で発表したへるん入試一期生のみなさん



中村 伶詞 准教授

松崎 貴 理事

島根大学とへるん入試

特集
1

大学入学共通テストを課さない入試として注目を浴びた、総合型選抜入試「へるん入試」。

その一期生が卒業を迎え、3月に卒業成果発表会が開催されました。

2024年度からは新たな教育プログラム「クロス教育」も導入され、黎明期を迎えている島根大学の学び。そこに込められた想いに迫ります。

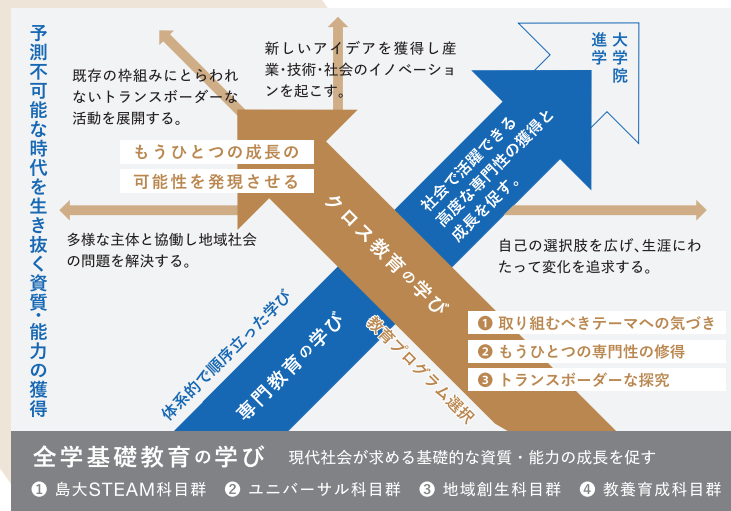


＜特集1＞島根大学とへるん入試…………… 01
自らの学びのタネを育て、可能性を広げる
＜特集2＞島根大学の共同研究…………… 05
“快適さ”の評価基準をつくる

SHIMADAI Edge…………… 07
島根大学の研究・地域貢献事業紹介
次世代たたら協創センター 教授 新城 淳史

国際交流 GO & BEYOND…………… 09
活躍する卒業生…………… 11
SHIMADAI NEWS…………… 13
SUPPORTERS VOICE…………… 15

Let's 広報サポーター…………… 16
島根大学支援基金より…………… 17
読者プレゼント…………… 17



これまで、学生の専門性を高めることを主な目的としてきた大学での学び。しかし、複雑かつ予測困難な現代において、今求められるのは、自分の専門性と異分野・異領域の知識を組み合わせ、創造的な解を導き出すことができる人材。本学では、自身の専門領域にとどまらず、複数の領域を越境（クロス）して学び、多



大学教育センター
准教授
中村 怜詞

自分の可能性を広げる「クロス教育」



角的な視点やスキルを身につけられるプログラム「クロス教育」をはじめました。教授陣によって精選された授業科目を組み合わせたプログラムが複数用意され、学生は単位を絡めながら、所属する学部や学科の高度な専門性の獲得を目指すカリキュラムで学びながら、同時に他のテーマや分野にも挑戦できるのが「クロス教育」の特徴です。

松崎 他の分野の人たちと協働して問題を解決しなければならぬとき、その分野の人たちとの共通言語や共通する考え方を知っていると、それだけで物事がスムーズに進みます。

中村 自分の学問領域とは違う見方や考え方が身につくと、それまで見ていたもの・ことの捉え直しができるようになって自己の成長に繋がります。また、異なる知識や視点を組み合わせることで生まれるイノベーションにも大いに期待しています。

提供されるプログラムは3段階にわかれており「もっと時間をかけて地域問題解決に取り組みたい」「自身でプロジェクトを立ち上げたい」など、熱意をもった学生の受け皿になっているところも大きな特徴です。松崎 大学とは、自分の中にある先入観を壊し、拡げていく訓練の場なのです。自分の軸をもって学び、さらにさまざまなところに目を向けられる「心の強さ」をもった学生は、どこに行っても活躍できると私は信じています。そしてそういった人材が将来、島根大学に戻り、地元の課題解決に貢献してくれるとうれしいですね。新しい視点を見つけ、混沌とした時代を切り拓くリーダーを育成する。そういう面では、クロス教育もへるん入試も、目指す方向は同じなのです。

全学基礎教育の学び

- テーマ別プログラム(10単位)
- アドバンストプログラム(20単位)
- 同学部異領域専門プログラム(10単位)
- 他学部学問基礎プログラム(10単位)
- トランスボーダープログラム(30単位)

クロス教育受講生の声



法学部
法経学科
時山 怜花さん

「ヨーロッパ言語文化実践力養成プログラム」と「グローバル・コミュニケーションプログラム」を履修しています。後者を選択したのは、将来、海外と関わる仕事に就く可能性を視野に入れているから。実は、入学直後は将来の方向性が定まっていなかったが、クロス教育を通じて、自分の目標を見出すことができました。自分の興味や関心を広げ、将来に繋がてくれるクロス教育、そして熱心に指導してくださる先生方に感謝しています。



法学部
社会文化学科
切通 瑠依さん

自分のライフプランが明確になっていない状態で大学に入学したので、将来への不安を少しでも取り除きたいと「キャリアデザインプログラムベーシックコース」の履修を決めました。さまざまな社会経験を積まれた講師陣のお話を聞きながら、日本社会の実態について学んでいます。このプログラムを通して、自分のキャリアをどうデザインしていくか、そしてこれから先の長い人生を自分らしく生きるためにどうすればよいのかを考えたいです。

好奇心や探求心をもった学生こそへるん入試に挑戦してほしい



理事
(教育担当)
松崎 貴

大学入学共通テストを課さないことから、へるん入試がはじまった当初は、一般入試で入った学生と学力の差が出るのではないかと懸念されていました。しかし、大学で修得した単位の成績評価の積算値を表す「GPT」を見てみると、へるん入試で入った学生と一般入試で入った学生で、卒業時の成績に差はありませんでした。

また、1期生の進路を見ても、法律と経済を学んだことで自身のやりたいことが明確になり厚生労働省に就職した人、自身の学びをさらに深めたいと大学院に進学した人などがいて、それぞれの「学びのタネ」を4年間で立派に育てた様子。

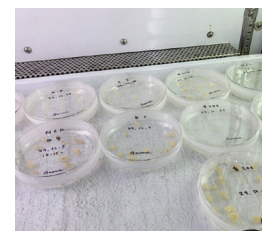
松崎 日本の教育は「できないところ」に目を向ける傾向があつて、どうしても自己肯定感が低くなったり、学修に対する意欲が低下したりしてしまっています。しかし、卒業成果発表会でへるん入試の1期生を見ると「自分のやりたかったことを思う存分に学ぶことができた」という自信に満ち溢れた表情をしていました。未来を語る表情もキラキラしていて、本当に誇らしかった。自分がやりたいことをとことん追究して、育てていける環境が島根大学にあることを、中高生たちにもっと知ってもらいたいです。

へるん入試卒業生の声

生物資源科学部
生命科学科卒業
東 茜さん

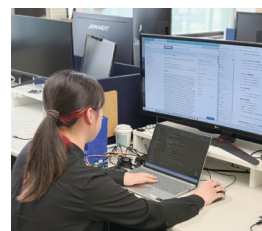


高校一年の頃から生物学に傾倒している私には、学修への意欲を評価する試験方法がぴったりだと思い、へるん入試を受けることにしました。「学びのタネ」を設定したことで、大学生活で何をすべきか、どの授業を取るべきかがクリアになり、意欲的に学ぶことができました。また、効率よく学べたおかげで、アルバイトや趣味の時間などプライベートを充実させることもできました。4年間を経て生物学をさらに深く学びたくなったので、卒業後は大学院に進みます。



卒業研究の題材
「イネ胚盤由来のカルス」

総合理工学部
知能情報デザイン学科
卒業
常松 麗華さん



研究室での
作業風景

ITを活用して農業を支援したいという「学びのタネ」をもち、専門高校の商業科から入学。最初は授業についていけるか不安でしたが、友人同士で得意分野を教え合うことで問題はありませんでした。ITに関する専門知識を学べただけでなく、県内企業との共同研究にも参加できて充実した4年間を過ごしました。高校生のころは、まさか自分が国立大学に進学できるなんて思ってもみませんでした。高校生のみなさんはどうか自信をもって、自分の情熱を面接でぶつけてください。

右から
総合理工学部 建築デザイン学科 清水 貴史 准教授
舟木木工所 舟木 清さん
カツデン株式会社 小島 啓樹さん



地域に開かれた、研究者という在り方

現在、研究室では近年急速に発展するAIを活用した住環境の性能・快適性評価の研究にも着手。住宅に求められる熱的快適性や断熱性能に関する評価、制御を自動化する技術の研究開発も進めています。

加えて、地域とつながる研究も広がりをみせはじめ、これまでに石見地方の伝統芸能である石見神楽の

することで、階段のささら桁が細くなり、昇降時に発生する音や振動の影響が顕在化していました。ただ、これまでに階段の振動の評価方法は十分に確立されておらず、よりよい階段のデザイン提案を目指すカツデン株式会社との議論の中で、階段の安全性や快適性をさらに向上させるという研究テーマが立ち上がったのです。この共同研究でさらに特徴的なのは、視認性向上への取り組み。ユニバーサルデザインが求められ、段差を解消する方向にシフトしている住宅の中でも、階段だけは段差をなくするのが困難。そこで、清水准教授は過去の段差視認性評価の研究成果の活用を思いつき、さらに階段の段板に美しい装飾をあしらうことで視認性を高める手法を模索。デザイン性と安全性を両立するユニバーサルデザイン階段の研究として、島根県雲南市に工房を構える組子細工の現代の名工、舟木清氏（舟木木工所）の協力のもと、企業と地域の伝統工芸、大学という3者による共同研究がスタートしています。2023年に始まったこれらの研究は、2024年にしまね産業振興財団の研究開発助成にも採択され本格的に動き出しました。安全で楽しいデザインのの実現を目指し、「つかう人の感じ方」にも注目しながら、研究を進めています。



カツデン株式会社 島根益田工場

島根県益田市虫追町口320 番地119

<https://kdat.jp/>

島根県益田市に位置するカツデン株式会社の製造拠点で、主に建築金物やインテリア製品などの金属加工を手がけています。高精度な技術と品質管理を強みとし、多様なニーズに応える製品づくりを行っています。



島根大学の共同研究

“快適さ”の評価基準をつくる。



島根大学 × 企業が描く 住宅性能の新たな指標

日々の暮らしの中で、階段は重要な役割を担っています。近年、階段にも意匠性が求められスタイリッシュな階段が提案されていますが、同時に昇降時の安全性や不快な振動の抑制も考慮されつつあります。

そうしたよりよい階段のデザイン提案に、企業と連携して「評価基準をつくる」に取り組んでいるのが清水貴史准教授。企業との共同研究によって、研究室の学生と共に、学びと課題解決の両方にアプローチしています。

企業との連携で生まれた実践的な研究

清水准教授の専門は建築環境学で、特に熱環境や音環境に関する分野の研究に取り組んでいます。大学に着任する以前には公的な試験機関で建物の性能評価を行い、その後、住宅メーカーの技術研究所で研究開発に携わってきました。その経験を活かし、現在は研究と教育・研究成果の社会実装の両面から、より快適で安心な建築環境の実現を目指しています。

階段などの住宅関連製品を開発・製造するカツデン株式会社との共同研究を行うきっかけは、同社が島根県に研究開発拠点となるR&Dセンターを設立したことでした。カツデン株式会社の担当者と共に、製品開発に関する課題やニーズを共有する中で見えてきたのが、階段製品のデザイン性と安全性・機能性の両立。特に近年、リビングの一部として溶け込むよう、スタイリッシュなデザインを追求

公演会場の音響調査や、東出雲町の特産品である干し柿生産のための柿小屋の温湿度調査といった地域の暮らしや文化に寄り添う研究にも取り組んでいます。また、研究に参加する学生たちにとっても、これらの共同研究は実際に現場に赴いて行う測定や、未だ確立されていない技術・評価手法の提案に、企業や地域の方々と協働で挑むことのできる貴重な機会。研究が「机上のもの」ではなく、社会と密接につながっていることを実感しています。

今後は、より高度化・複雑化している建築環境への要望にも応用可能な研究を視野に入れているという清水准教授。「企業と共に研究を進めることで、実際に『使える』研究成果を生み出していきたい。学術的な結論だけに終始せず、社会の課題に具体的に応えるような成果につなげたいですね」と語る清水准教授。今後も、地域の企業や行政、文化団体との連携を深めながら、実用的で持続可能な建築環境の実現に貢献していく考えです。

SHIMADAI Edge

尖った研究だから生まれる最先端

宇宙は、もっと近くなる。

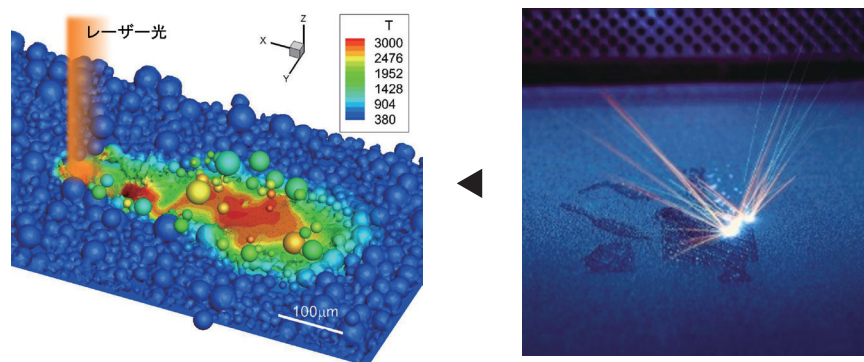
島根から、世界とつながる研究を。



世界の研究者たちと協働し、島根から宇宙開発の未来に貢献する。その中心にいるのが、次世代たたら協創センターの新城淳史教授です。飛行機のパイロットになりたい―それが少年時代の夢だったという新城教授。年齢とともに視力が低下したことから、その夢は叶わなくなったものの、それでもあれば飛行機をつくる側になろうと猛勉強したのが、この道に入ったきっかけとか。その憧れは、やがて形を変え、ロケットエンジン開発を通して日本の宇宙開発技術の革新に挑む研究者という現在につながっています。

大学で航空宇宙工学を学んだ新城教授は卒業後、JAXA（宇宙航空研究開発機構）に就職。13年間にわたり、航空機やロケットのエンジン開発に携わりました。その後、より自身の研究を深めていきたいと研究者へと転身。国内外の大学を経て、2018年に島根大学に着任した後に取り組んでいる研究が「金属積層造形の高品質化に向けた造形プロセス最適化シミュレーション」です。

航空宇宙や医療などの分野において形状が複雑な部品の製造に有望な方法である金属積層造形（3Dプリンティング）。レーザー光で金属粉末の層の溶融・凝固を繰り返し積み上げて製品を作りますが、繊細な作業の多い金属積層造形では、気泡の混入、不完全な融け残り、割れなどの不具合が生じることがあり、これらの欠陥が、部品の強度を低くし、壊れる原因となります。この原因



提供:NTT DATA XAM

金属積層造形中のレーザー付近の溶融凝固の様子

左の図は、右写真の光輝いている（レーザー）部分を可視化したもの。色は温度を示していて赤い色ほど高温になっています。

を探索のに欠かせないのが、高精度数値シミュレーション。どの研究においても、もちろん実験は行いますが、実験だけでは不具合や改善点に辿り着けないことも。そこでシミュレーションによって見えない現象を「見える」ようにするのが私の役割です」。

新城教授の研究室では、複雑な現象を高精度に解析することができる数値シミュレーションプログラム「TATIME X」を独自に開発。積層造形のプロセスを最適化し、これまで国内外の大学や企業とともに積層造形に関連する現象を明らかにしてきました。昨年冬からは、これまでの研究の成果が評価され「JAXA宇宙戦略基金の国家プロジェクト」に参画。現在は金属積層造形で大型ロケットエンジンの製造に挑戦しています。国内有数の企業と大学が丸となって、近年国際競争の激しい宇宙開発分野における日本の国際競争力を高めるために尽力しています。

地方にある大学で、どうしてこれほどの最先端研究が進められるのか―その答えの一つが「デジタル」です。「設計図やシミュレーションデータはすべてデジタル化されているので、世界中どこにいても共同研究が可能です。研究に必要なのは環境と仲間。島根大学では設備が整っているのはもちろん、優れた材料系の研究者も集まっています。孤独になりすぎずに研究に打ち込める環境があるんです」。

さらには現在、オックスフォード大学、バミニングラム大学、東北大学との共同研究も進行中。「今の時代、研究は地理的な距離に左右されません。だから私は、学生にも、世界は遠くない」と伝えたいんです」。直接、会ったことのない海外の研究者ともオンラインで連携しながら研究を進める。



オックスフォード大学の研究者、島根大学の大学院生と打ち合わせ後の食事会（オックスフォード大学にて）

「今はそれが当たり前前にできる時代ですから」と微笑む新城教授。「宇宙工学、材料工学、と聞くと難しそうと思う人も多いでしょう。もちろん簡単に答えが出るものではなく、難しいことに取り組むことも多い。だからこそ、好き」という気持ちで原動力になると思うんです。年齢を重ねた今も、航空機開発に憧れ、研究に没頭した10〜20代の頃と気持ちは全く変わっていないと語ります。

「あの頃の私のように、やってみたい、という気持ちや興味を持ってくれる若者が1人でも2人でも増えてほしい。そんな気持ちで毎日、研究に取り組んでいます。世界は遠くない。宇宙も未来も、ここ島根からつながっている」。そう語る新城教授のまなざしは、今日も少年のようにまっすぐ希望に満ちています。



GO



To REPUBLIC OF KOREA

留学先

大韓民国／全北大学
(2024.2～2025.1)

人間科学部・人間科学科心理学コース

久保 葵さん

興味を持っていた心理学を充実したカリキュラムで学べるうえ、韓国語を第二外国語として選択できることなどを理由に本学へ。歴史ある街に住みながら、長期留学で実践的な韓国語を身に付けたいと留学を決意。



関係を作るため自ら行動できるようになったことがいちばんの成長



留学先の全北大学は、「キャンパスが広く、伝統家屋」韓屋が基調」「日本語学科、メディアコミュニケーション学科がある」「自由に履修が組める」と久保さんの理想が揃った大学。「広告心理学や日韓の翻訳についての授業を主に取り、興味の赴くままに勉強できたのが楽しかった」と振り返ります。最初は韓国語に自信がなく黙り込んでしまうことが多かったそうですが、「大事なのは語学力じゃない」と気付き、コミュニケーションの取り方を変更。「表情やリアクションでも気持ちは伝わるし、仲良くなりたい気持ちや好意を示すことで関係は作っていける」と自ら行動できるように。日本語研究サークルの活動では昔から好きだった「ことば」への興味が大きくなり、韓国語だけでなく日本語の魅力を再確認したそうです。言語を勉強することで世界が広がる楽しさも実感し「自分らしい表現ができる文芸の翻訳に挑戦したい。そして翻訳を通して母国語の魅力に気づいてもらえるような活動をしたい」と話してくれました。



学部棟と寮の間にあるブランコ。目の前はグラウンドが広がっていて眺めも最高。風を感じながら、ひとりでぼーっとする時間が癒やして、思い悩んだときよく座っていたそう。



サークルの友人がサプライズで開いてくれた送別会。ハンゲルで名前が彫られた印鑑をプレゼントされ、その場で友達契約書にサインと押印。契約書はサークル部屋に貼ってくれた。



BEYOND

From FEDERATIVE REPUBLIC OF BRAZIL

出身国

ブラジル連邦共和国
(2024.9より島根大学に留学)

法文学部日本語学科

モッソ・モニッケさん

専攻する日本語はもちろん、文化や文学、古典など幅広く学ぶ。特に好きな分野は研究テーマにも採用した文法。ブラジルにはポルトガル語で書かれた日本語教材が少なく、教育教材もほとんどないため、文法の教科書を作成する活動に励んでいる。



ブラジルで日本語や日本文化の普及をサポートしたい。

「ブラジルでは日本語に触れる機会が少なく、良い研究者になるためには日本への留学が不可欠だ」と感じていました」と語るモッソ・モニッケさん。サンパウロ州で育ち、穏やかな暮らしを好む彼女が選んだのは、島根大学でした。首都圏や外国人の多い場所ではなく、自然が豊かで伝統文化が残る松江市の環境は、言語を研究する上で理想的な場所だったといいます。留学前は不安もあったものの、「行けばきっと何とかなる」との思いで日本行きを決意。留学し、さまざまな経験を積んだからこそ、今では「何でもできる」と、自信と可能性を実感しています。

日本語力の向上はもちろん、世界各国から集まった留学生との出会いを通して異文化の多様性にも触れ、自分自身や母国についての理解も深まりました。

「夢は、大学教授として働きながら研究を続けることです。ブラジルには多くの日系人がいますが、日本語や日本文化はあまり普及していません。ここでの学びを、ブラジルにおける日本語研究に生かし、先生方や関係者にフィードバックしていきたいです」と、将来への思いを力強く語ってくれました。



ブラジルではできないからこそ、やってみるべきとチャレンジしたスキー体験。大山に大学のみんなと行ったのは楽しい思い出です。



文化の日を訪れた「由志園」では、着物を着る機会も。大根島までドライブし、ジブリ映画のような景色に魅了されました。

GRADUATE OF SHIMANE UNIVERSITY

1000時間体験学習プログラム
今年、創基150周年を迎えた教育学部には、理論的な学びに加え、地域や教育現場での実践的な体験を積むことで、教員としての実力を養うことを目的とした「1000時間体験学習プログラム」

中学生という多感な年頃にも惹かれたといえます。「中学生は思春期や反抗期など、心が揺れ動く複雑な時期であり、大人と子どもとのちょうど中間にいます。その分、成長の幅が大きく、ちょっとした声かけで変化をしていく。そんな生徒の成長を間近で感じられるこの仕事に、大きなやりがいと魅力を感じています」と伊藤さん。



があります。具体的には、地域活動や教育支援などの基礎体験を640時間、教育実習やカウンセリングなどの学校教育体験を360時間履修し、計1000時間を超える体験を行うプログラムです。島根大学独自のこの取り組みは、伊藤さんにとって、教育現場との距離をぐっと縮める貴重な機会となりました。「教育実習では、近隣の学校を複数訪れ、大学での学びと実践が結びついて理解が深まりました。現場で初めて分かることも多く、答え合わせと新たな発見がありました。他にも給食指導や、島根県立青少年の家での活動など、さまざまな貴重な経験ができました。最初は1000時間という数字に驚きましたが、自分のやりたいことや見ておきたい現場をピックアップしていくうちに、気づけば1000時間を超えていました」と語ります。

こうした体験は、「なりたいたい自分」を具体的に思い描く大切な時間だったそうです。学生のみなさんには、「実習は大変かもしれませんが、積極的に関わることによって多くの魅力が見えてくると思います」とエールを送ります。

日々成長を感じる
昨年までは別の中学校で、1年生から3年間、学年を持ち上がりで担任していた伊藤さん。「教師は大変だね」と言われることもありましたが、「教師ほど生徒の成長を間近で感じられる仕事は他にありません。やんちゃだった子が3年間で大人に成長していく姿を見ると、本当に感動します。卒業式では、保護者以上に泣いてしまいました」と語ります。個々の成長が見られる中学生ですが、集団で発揮するエネルギーは想像を超えており、自身も日々、生徒からエネルギーをもらっているそうです。また、大学時代の同期が同じ島根県内で教師として活躍していることも、大きな励みになっているとのこと。食事や旅行を共にし、同じ立場・地域で働く仲間の存在は、何よりも心強い支えとなっています。「これからも自分自身の思いや考えを率直に伝えながら、子どもたちとできるだけ近い距離で向き合っていきたいです」と、意欲を語ってくれました。

活躍する卒業生



島根県中学校教諭 伊藤元伽さん

島根大学 教育学部・学校教育課程Ⅱ類健康スポーツ教育専攻2021年3月卒業



成長を近くで感じる、魅力ある教育の現場



“大変”よりも、好きと感動が上回る
教育学部を卒業後、迷うことなく島根県で教員の道を選んだ伊藤さん。自身が育った町で、子どもたちを支えたいという思いから、教員となって5年目を迎えました。現在は安来市の中学校で1年生の担任を務めています。教師を目指すきっかけは、恩師の「教師という仕事は、人の人生の一部に関われる素敵な仕事だよ」という言葉に深く共感したことだそうです。中学校教諭を選んだ理由の一つは、部活動の存在でした。小学3年生から大学4年生まで陸上競技に取り組んできた伊藤さんにとって、部活動を通じた指導は大きな魅力でした。また、



安来市立第一中学校

島根県安来市飯島町792

<https://www.city.yasugi.shimane.jp/gakkou/daiichi-jh/>

島根県安来市にある公立中学校で、学力向上と心の育成に力を入れ、地域との連携や部活動も盛んです。

July.2025

NEWS

04



情報処理学会にて 学生奨励賞を受賞

3月13日から15日に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催された情報処理学会第87回全国大会で、総合理工学部機械・電気電子工学科（受賞当時）の荻巣光さん（指導教員：伊藤史人）が「重度障害児のスイッチ練習を促す療育支援ゲームアプリの開発」で大会学生奨励賞を受賞しました。この賞は、学生セッションで発表された学生会員の中から、座長の裁量により特に優れた発表に贈呈されるものです。

▶「徒競走」
ゲームアプリ▶「野球盤」
ゲームアプリ

NEWS

01



材料エネルギー学部 アントレプレナーシップ教育 最終発表会を開催

1月20日と21日、材料エネルギー学部で「アントレプレナーシップ教育」の最終発表会を開催しました。この教育は、起業のためだけでなく、大学の研究成果を社会実装するためのマインドとスキルを学生と教員が共に学ぶことを目的としています。1年生は教員の研究に基づくビジネスプランを発表、2年生は1年次のプランを更に深めた発表を行いました。学生からは、顧客のニーズを事業に繋げる難しさや、試行錯誤を通じた新たな工法発見の経験なども語られました。県内外の企業や県知事も参加し、関心の高さが伺える発表会となりました。



NEWS

02



令和7年度島根大学入学式を挙行

4月2日、島根大学入学式を「くにびきメッセ」で挙行了しました。今年度は、全学部・大学院合わせて1609名の新生が新たな学生生活をスタートさせました。式典では、大谷学長が新入生全員への入学を許可。式辞では、「都会の喧騒や情報過多から離れ、豊かな歴史と文化、自然に恵まれた島根の地でこそ、これからの時代を担う皆さんが、世界的な課題を主体的に捉え、教職員と共に考え、議論し、学び、解決策を探っていくべきである」と述べました。ご臨席いただいた



た丸山達也島根県知事からは、「学部活動だけでなく、多様な学部生との交流を通じて、自身の専門分野以外のことに興味を持ち、幅広い視野を養ってほしい。新入生の皆さんの島根大学での学びが実り多いものになることを心から願っている」と祝辞を賜りました。また、式では新入生代表の村上奈風美さん（教育学部）が宣誓書を読み上げました。さらに、先輩の模範として、「第75回三十三間堂大の全国大会」成年男子の部で優勝した加藤大雅さん（教育学部）の表彰も行いました。

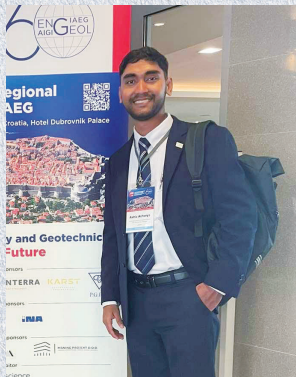
NEWS

03



Ashis Acharyaさんが 国際地質エンジニア教育 プログラムの参加者に

自然科学研究科創成理工学専攻のAshis Acharyaさんが、カナダで開催されるGeoRAプログラム（地質エンジニアリング・地質科学研究加速プログラム）の参加者に選出されました。このプログラムは、世界的な地質コンサルタン会社BGCエンジニアリングが主催し、世界中の応募者から最大10名が選ばれます。Ashisさんは100名を超える応募者の中から選ばれました。この先端的な教育プログラムでは、参加者が最新技術を学ぶだけでなく、互いの知識や技能を共有し、研究のさらなる発展や新たな方向性の開拓を目指します。6月9日から8月22日まで、カナダ・バンクーバーで開催される予定です。



NEWS

05



100日間咲き続けるツツジ の新品種を開発しました

生物資源科学部は、花色変化を伴い約100日間にわたり開花が持続するツツジの新品種を開発し、4月24日にしまね花の郷（出雲市）で記者説明会を行いました。

江戸時代からのツツジ品種が持つ「見染性（みそめしう）」と呼ばれる形質の遺伝子研究と品種改良の結果、長期間開花する見染性形質に二期咲き等の魅力的な形質をあわせ持つツツジ新品种の育成に成功しました。「見染性」新品种では、気象条件に左右されず4月下旬から6月まで花が持続する新たなツツジとして期待され、花き生産者での試験栽培が行われています。

島根大学発の新品种として現在3品種が品種登録申請中です。



NEWS

06



インド政府から本学にラマン博士の胸像を 寄贈いただきました

インドの物理学者で1930年にアジア人として初めてノーベル物理学賞を受賞したC. V. ラマン博士の胸像がインド政府より寄贈され、5月12日に松江キャンパスにて除幕式を行いました。

除幕式には大谷学長、シビ・ジョージ駐日インド大使、上定昭仁松江市長ほか約60名が出席しました。

胸像は高さ80センチ、1メートルの台座に据えられており、多くの学生が行きかう学生市民交流ハウス（FLAT）横に設置されました。

島根大学ではラマン博士が発見したラマン分光法を応用して多数の研究を推進してきました。また、2013年に設置した「医・生物ラマンプロジェクトセンター」を中心



に、研究だけでなく教育、国際協力の各方面における活動に発展させてきたこれまでの実績がインド政府に評価され、今回の寄贈となりました。式典で大谷学長は「本学での研究がインド政府に認められ誇らしい。この胸像が、本学の若き研究者や学生たちに科学の魅力と探究心を伝え続け、ラマン博士の精神を永く語り継いでほしい」と述べました。シビ・ジョージ大使は「研究分野の交流がより広がってほしい」と挨拶されました。その後、関係者による除幕が行われ、胸像の寄贈を祝いました。





Let's 学生広報サポーター

春先の寒さが残る中、2025年4月21日(月)に材料エネルギー学部棟と産学協創インキュベーションセンターの竣工記念式典が行われました。今回は、竣工記念式典の様子と共に、待望の新学部棟と産学連携の中心となるインキュベーションセンターの今を取材してきました。



(取材・撮影・学生広報サポーター R.I.)

【学生取材】新学部棟とインキュベーションセンター竣工 ― 新たな地域創生の架け橋に



式典終了後、産学協創インキュベーションセンターと材料エネルギー学部棟の内覧会が行われました。三浦機構長の先導の元、まずは、産学協創インキュベーションセンターを見学しました。

この日の式典には、廣田貢文部科学省文教施設企画・防災部計画課課長、丸山達也島根県知事や児玉泰州島根県工業理事、東北大学並びに秋田大学関係者、このほか地元企業、自治体関係者らあわせて総勢60名の方が参加されました。

竣工への祝辞では、文部科学省代表の廣田計画課長、丸山県知事、児玉工業理事より、材料エネルギー学部の発展と地域の産業振興に対する期待を寄せるお言葉が述べられました。その後、大谷学長らによるテープカットが執り行われました。

竣工式典後半では、三浦材料エネルギー学部長・三浦先端マテリアル研究開発機構構長による両組織の現状と今後の展望についての紹介がありました。

続いて、材料エネルギー学部棟に向かいました。材料エネルギー学部棟は、鉄筋コンクリート造5階建て、エレベーター1基、延べ床面積4,076㎡、総工費約16億8,000万円。総合理工学部2号館の一部を取り壊し、建設されました。隣接した総合理工学部2号館とは、各フロアが通路で繋がっています。

材料エネルギー学部棟内の雰囲気は、他の学部の建物とは顕著に異なります。1階は、大型分析機器を揃えており、その中でもリガクのSmartLab全自動多目的X線回折装置は透過力の高いAg線源を採用し、結晶・非晶問わず材料系局所構造特定に活用できる環境が整備されていました。その他の階では情報系・化学系・金属系とそれぞれに実験室などが設けられており、実際にグローブボックス内の不活性ガス雰囲気下で実験

本センターは、鉄筋コンクリート造2階建て、総工費約8億4,000万円、延べ床面積は1,944㎡。元々駐輪場であった敷地を最大限に活用した広さとなっています。

1階は広いフロアとなっており、もの創りに必要な三次元積層造形の最新機器は勿論のこと、様々な材料の分析評価研究機器の設置が予定されており、数年以内に地域の試作開発センターとして機能することです。真新しい研究機器に、かなり研究意欲がそそられる、そんな理系にとって天国のような空間になることでしょう。

に挑む学生の姿も見られました。さらに、今回の記念式典が実施された5階は、イベントやセミナー、自習空間など様々な活用が可能なフロアであり、企業と学生の交流の場として島根の地から新たなイノベーションが生まれることに期待が寄せられる空間となっていました。



～取材を終えて～

総合理工学部に身を置く私にとって、産学協創インキュベーションセンターや材料エネルギー学部棟の設備はかなり目を見張るものばかりでした。新型の機器だけでなく、研究のための様々な分析の選択肢を広げられる、そのような可能性を強く感じました。



SUPPORTERS VOICE

新たな価値を一緒につくる、島根大学の共創パートナー

日鉄テクノロジー株式会社

右から
テクニカルアドバイザー 末廣正芳さん
文化財調査・研究室長 渡邊緩子さん
文化財調査・研究室主査 隅 英彦さん
テクニカルアドバイザー 迫田章人さん



新しい境地を開く、青銅器研究の国際拠点へ

法文学部は、2024年12月に「日鉄テクノロジー株式会社」と産学連携研究協定を締結し、現在、「青銅器・青銅器文化・金工技術研究の国際的拠点」の形成を目指した取り組みを進めています。

協定締結の背景には、前年度に「原料レベルでの研究を行いたい」という岩本崇准教授をはじめとする大学側の構想があり、その実現のために分析を依頼したところ、想定を上回るデータが得られたことが契機となりました。これを受けて、現在も継続的に価値ある研究が行われています。

これまでに30面以上の青銅鏡の分析が実施されており、その貴重なデータに大学も大きな期待を寄せています。

『日鉄テクノロジー株式会社』文化財調査室は、国内最大規模の試験分析会社として、さまざまな文化財に関する学術的・歴史的調査研究を行っています。同室には、最新の研究装置や分析機器に加え、材料研究・腐食調査・分析の専門スタッフが在籍しています。「私たちの仕事は、優れた分析技術に基づく、良質な結果を出すことだけ」でなく、それを生かすための科学的な考察を行うことにあります。考古学研究をより深めていただくために、ワンチームで最

善のサポートを行っています」と、研究に対する姿勢を語ります。

青銅鏡という貴重な文化財を、微小領域から採取したサンプルによる成分分析をするだけでなく、内部の組織観察を大胆に行う覚悟も必要です。実際、ウォータージェット加工を用いた断面観察なども行われました。こうした分析結果からは、製作された時代背景や技術の詳細が明らかになるだけでなく、当時の権力構造や文化の伝承方法など、幅広い歴史的知見を得ることが出来ます。

「昔の技術を現代に応用できるかもしれない」という視点もあります。分析は非常に奥が深く、単なる成分の違いだけでなく、当時の技術者の思考や手法を垣間見ることができ、分析のたびに感動を覚えます」と関係者は語ります。異なる専門性を持つ大学と企業が連携することで、新たな視点が生まれ、世界から注目される新たな価値創出へとつながっています。



クリーンルームにて、超精密測定である鉛同位体比分析を行っている様子

産学官連携はオープンイノベーション推進本部へ！

連絡先 オープンイノベーション推進本部
<https://www.openinnov.shimane-u.ac.jp/>

オープンイノベーション推進本部は、産学官連携の推進を図り学内外のネットワークを強化し、産学官連携の共同研究を通じてその研究成果を社会に還元し、地域産業の振興やイノベーションを創出する皆様の真の共創パートナーを目指します。



オープンイノベーション推進本部長 松本真悟



信頼と実績・高品位ソフトウェア開発



**希望に満ちた
未来ある若人を応援します!**

島大出身の社長・OB・OGが数名在籍!



Everything begins with one will.
株式会社ソフト開発

一緒に働く仲間 募集中!

詳しくはこちら

東京町田本社 042-795-7613
広島オフィス 082-850-0877



木造建築に欠かせない 合板の 製造・販売 で国内販売シェア約30%!!



島根大学卒業生も多数活躍中!

詳しくはInstagramをチェック!!



人と木をむすぶ
日新グループ

松江・浜田・境港から
徳島、三重に広がり
そして世界に向かう
日本一の合板メーカーを
目指しています。

WEBサイトはこちら
https://www.nisshin.gr.jp





ディーゼルエンジン用部品／産業機械用部品
鋳物業材～加工完成・組立～貫生産

テクノロジーと信頼で『夢・希望・未来』を創出する

ヤンマーキャステクノ株式会社

(本社・松江事業部) 島根県松江市八幡町960番地 ☎0852-37-1355
〒690-0025
(甲賀事業部・鋳造技術センター) 滋賀県湖南市柑子袋360番地 ☎0748-72-0800
〒520-3233

https://www.yanmar.com/jp/about/company/ycat/

～よりよい環境づくりを目指して～



株式会社コスモ建設コンサルタント

土木設計・測量・地質調査・補償コンサルタント

島根県出雲市斐川町莊原 2226-1
https://cosmoc.jp/
☎0853-72-1171



帝人コードレ株式会社

島根から世界へ、未来につなぐ技術力

人工皮革・フィルムの開発 製造 販売

島根工場 大田市長久町長久1446
大阪本社 大阪市北区中之島3-2-4





先進の IT 技術で
未来を拓く。

エンタープライズ系・組込み系のソフトウェア受託開発を
メインに、研究開発にも積極的に取り組んでいます。

日本システム開発株式会社 本社:名古屋 事業所:東京、松江
〒690-0003 松江市朝日町 480 番地 8 松江 SKY ビル 3F
TEL:0852-28-7175 FAX:0852-28-7233 HP: https://www.nskint.co.jp/



うまいもんなら、なんでもマルイ



**24時間
営業**

マルイ黒田店

スタッフ募集中!
(正社員・パート・アルバイト)



https://www.maruilife.co.jp

～あしたへ、未来へ～
地域創造企業

おかげさまで40周年
SHOWA

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。

http://www.showa00.co.jp/

建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事

株式会社 昭和測量設計事務所

あしたへ 未来へ
求人のお問い合わせは 営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山
【本 社】島根県益田市高津四丁目14番6号 TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573
【事 務 所】浜田・松江 【営 業 所】大田・江津・川本





広告募集

広報しまいだいでは、企業・団体様等からの
広告を募集します。

島根大学企画広報課
TEL：0852-32-6603
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

Think regional
act regional



地域を「共想」し、地域を「共創」する。

セーラー広告株式会社 https://www.saylor.co.jp/
岡山本社／岡山県岡山市北区東古松南町6番地29
TEL (086) 231-2301

島根大学生協同組合は
島大生の住生活をサポートしています!

★毎年約700人の方が生協でお部屋を決めています。
★管理物件を募集しています。ご相談ください。

学生向管理物件 登録部屋数 約1,600室

■管理物件の取り扱い・お問い合わせは
島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel0852-20-0881
https://www.shimadai.coop/

この看板が
目印です! **管理** 

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

たくさんのご支援ありがとうございます

令和6年度は皆さまのご寄附により約6,300名の学生及び32団体の学生サークルに約2,800万円の支援を行うことができました。

皆さまの温かいご支援に感謝を申し上げます。

支援を受けた学生からの感謝のメッセージ

私は、夢チャレンジ奨学金を受給できたことで、大学1年生の期間を無理することなく生活と学業を両立して充実させることができました。支援していただいた皆さまへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも勉学に邁進していきます。（夢チャレンジ奨学金受給学生 法文学部1年）

※詳細な令和6事業年度決算報告は支援基金HPに掲載しています。

使途I「医学部への支援」医学部創立50周年記念事業について

医学部は今年創立50周年を迎えます。この記念すべき機会に、次の50年に向けて新たな一歩を踏み出すべく、学生や若手医師の教育環境を向上させるための「新教育棟」の建設を計画しております。使途I「医学部への支援」50周年記念事業への皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

詳細は医学部創立50周年記念HPをご覧ください。

ホームページはこちら



島根大学ホームカミングデー2025開催決定!

10月12日(日)に松江キャンパスにて島根大学ホームカミングデー(第10回島大大会員のつどい同時開催)、10月18日(土)に出雲キャンパスのホームカミングデーを開催します。詳細はHP等で公開いたします。卒業生、島大会員、地域の皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

島根大学総務課支援基金担当
TEL 0852-32-6015
Mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp
https://www.fund.shimane-u.ac.jp/



支援基金HP

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は皆さまからのご寄附を学生支援などに活用させていただく仕組みです。パンフレットは上記ホームページにも掲載しておりますが郵送もいたしますのでお問い合わせください。

法人からのご寄附(単回)	株式会社出雲村田製作所 株式会社オネスト 株式会社田部 株式会社テクノプロジェクト 株式会社ミック 山陰中央テレビジョン放送株式会社 島根電工株式会社 宗教法人出雲教 ティーエスケイ情報システム株式会社 有限会社ハウスメンテナンス ツチヤ
個人からのご寄附(単回)	青木 勲 芦田新典 芦矢敦子 東 秀一 天門永春 池田晴則 石黒信幸 石田英雄 石橋直樹 石原 亨 井上功治 猪俣泰典 居原田洋子 今西正樹 岩田 奨 印部亮助 浮川祥吾 牛尾弘隆 衛藤健治 内能寺真一 大國博昭 大庭晃一 大山浩平 奥村 稔 尾崎 敏 垣羽寿昭 加来洋一郎 橋 靖 片岡佳美 加藤富之 金崎啓造 川路澄人 寒河 潔 菅野貴浩 菊岡祐一 北山新二 黒田弘 小谷美保 後藤元典 小林治郎 藤田万州生 坂根正弘 佐々布和彦 塩原 潔 嶋江政喜 杉原 明 杉本明子 須保 学 須山弘一 田中 薫 田中俊幸 谷口博史 友口 勝 内藤 健一 永田まち子 長田倫以子 名取瑞樹 滑 純雄 仁科雅良 野崎誠二 野津和夫 野津萬知子 農守進治 萩原淨信 橋本朋之 原 泰子 東 正博 平井明彦 平田泰弘 広江千年 深田伸太郎 福井 勇 福島律子 福田洋二 藤田 啓 藤原伸夫 船津 忠 本田 学 松崎 貴 馬庭杜吉 馬庭洋美 皆本敏子 宮里公典 宮永龍一 宮本武志 村田 将 森口基十雄 安田 毅 安原 伸 山口伸一 山口信夫 行武禎一 横井昌治 横田修一郎 吉田伊佐見 吉山 治 米田 謙
個人からのご寄附(継続)	浅田健太郎 新井清市 安齋有紀 石野 真 伊藤文彦 井上陽一 入江文子 上野 誠 大賀みずほ 大谷 浩 大浜誠一郎 岡 明彦 小高良啓 鬼形和道 勝部毅弘 神谷年洋 吉川通彦 河野美江 古志千恵 境 英俊 坂田正昭 佐藤結美 椎名浩昭 杉浦 健 高橋哲也 竹谷 健 田村 航 塚本元徳 土肥香織 長井敦司 名取瑞樹 長谷川裕子 東川 豊 日高匡章 牧之瀬佑旗 松浦晃幸 松浦良紀 棟石 均 村松文治 山口 徹 吉岡宏敏 吉田通隆

※(単回)令和7年1月1日～令和7年3月31日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま ※(継続)令和6年4月1日～令和7年3月31日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま
※ご寄附をいただいた際に「氏名の公表を承諾しない」とされた方及び記載のなかった方は掲載していません。

編集後記

3月中旬に、へるん入試で本学の門をくぐった学生たちによる卒業成果発表会取材しました。地域の課題や自身の興味を「学びのタネ」に、それを多角的にとらえながら4年間学んだ学生たちの発表は、「タネ」を大きく成長させた自信がにじみ、逞しさを感じました。後日、「しまいだいエッジ」の取材で新城先生に宇宙工学を学ぶきっかけを伺いました。幼き日の新城少年の心に芽生えた夢や憧れはまさに「学びのタネ」であり、成長の原動力となって宇宙分野で活躍する研究者としての今に繋がったのだと思うと、果立っている学生たちの未来が楽しみでしかたありません。本誌を通して一人でも多くの中高生に、自ら学びを深め広げる楽しさを伝えたいと強く思いました。

長野県松本市70代男性／交換留学(派遣)、短期海外研修制度が充実していて素晴らしいと思いました。

島根県出雲市70代男性／小冊子ながら内容が充実しており毎回楽し〜拝読しております。60年近く前に卒業した母校島大の目をみはる発展に感無量です。

島根県雲南市60代女性／情報提供があることで感心を持っているので続けてほしいです。新しいことを知ることができて良いです。

島根県松江市40代女性／子供が進路に悩んでいる時期なので、広報などで卒業生の事が書いてあるととても参考になります。卒業後の進路の振り分けなどの情報も欲しいです。

島根県益田市60代男性／この度のしまいだいを読んで思ったことは島根大学内でとてまたくさんの留学生を招き入れ、勉学にいそんでいるのだと感嘆しました。

読者の声
voice

あなたの意見・感想をお聞かせください。

投稿のお願い「広報しまいだい」は島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他意見、質問などをお気軽に寄せてください。ご投稿をお待ちしています。

ご意見いただいた皆さまの中から抽選で5名様に島大農場で収穫・加工した「いちごジャム」「ブルーベリージャム」を各一瓶プレゼントします。※当選者のお知らせは発送を持って代えさせていただきます。※応募締切／令和7年10月31日(金)必着

投稿先
〒690-8504 松江市西川津町 1060
TEL 0852-32-6603 FAX 0852-32-6630
https://www.leaf2.shimane-u.ac.jp/enquete/no/shimadai61
Mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

